

みおすじ

第9号

平成12年10月15日

発行
愛知県立三谷水産
高等学校同窓会



会長 小田 喜代春

創立六十周年を 迎えて

みおすじ発刊にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

日本は、先の見えない低成長の時代だともいわれれておりますが、会員諸兄には職場・地域にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

会長就任以来今日を迎えることができましたのも、ひとえに会員諸兄の暖かいご指導、ご鞭撻のおかげと心よりお礼申し上げます。

さて、母校は、創立六十周年を迎えることとなりました。これを踏まえて創立六十周年記念事業を計画しましたところ、同窓会会員、PTAを始めその趣旨にご賛同いただき、ご協賛を賜りましたことに、深く感謝しお礼申し上げます。

記念事業としましては、第一に、「太平洋フェリー」いしか

第三に、同窓会会員名簿を 発行しました。

住所不明の会員の消息には多くの皆様のご協力をいただき、充実した名簿を発刊することができました。

第四に、創立五十周年からの十年間の歩みを写真集にした創立六十周年記念誌を母校の教職員のご尽力により発刊することができました。

いずれにいたしましても、これらの記念事業には、多くの会員の皆様のご協力によりまして無事挙行できる運びとなり、心よりお礼申し上げます。

母校は、本年度より河合英之校長先生をお迎えし、次の百周年に向かって各方面で大きな成果をあげ、活性化の波が大きくなるとなっております。

先般は、百年に一回とも言われる未曾有の集中豪雨にみまわれ、会員諸兄のなかには被害を被られた方もおられるとのことで、心よりお見舞い申し上げます。

最後に会員諸兄のますますのご活躍をご祈念申し上げますと共に、本会へのご指導と今後一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



六十周年を迎えて
校長 河合 英之

同窓会の皆様には、益々ご健康でご活躍のこととお喜び申し上げます。

また、日頃は本校発展のために御支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、今年度の定期異動で、この四月から再び本校に戻って参りました。最初の勤務が昭和六十一年の四月一日から平成七年三月三十一日までの十年間でした。

最初は近田校長先生、次が高平先生、そして長崎・石丸先生と十年間に四人の校長先生にお任せしました。平成七年に知立東高校へ教頭として

転任し、まさか本校にまた戻って来られるとは夢にも思いませんでしたが、再び本校で仕事ができることになり、大変喜んでおります。

最初の十年間には創立五十周年記念事業を始めとして様々なことがありました。この十年間を振り返ってみますと、五十周年記念行事の行われた年の平成二年三月三

十日に二代愛知丸が竣工しました。処女航海の遠洋航海実習に乗船したのは、私が担任をしていた機関科三年生のクラスでした。またこの年には、秋には創立五十周年記念事業も行われました。現在、校門右手に建っている灯台は、そのときの記念として同窓会から寄贈されたものです。

初めての女子生徒二名が入学したのは平成五年でした。女子生徒の入学にあわせたかのように、制服もチュウウニツクからブレザーに変更になりました。今年には三十八名の女子生徒が在籍しています。

この頃は教務の仕事をしていました。新しい学習指導要領の実施に伴う教育課程の編成や学校週五日制の月一回実施が始まったのもこの頃でした。平成七年からは、月二回の実施になるということで、教育課程をどう組むかに苦心をしましたが、本校での実施を見ずに転勤しました。学科改編、小型船舶養成施

設申請にも携わりました。在任中に一部は実現され、一部は持ち越されましたが、転勤後一・二年のうちに全部実現されたことを報道で知りまし

た。愛知丸の一年三航海が二航海になり、一年生の沖繩体験航海実習が始まったのもその頃でした。

私が留守にした五年間でも大きく変わっています。修学旅行は、スキー実習から北海道への洋上研修に変わりました。カッターレースの全国大会が本校主管で開かれるようになり、今年は第二回大会を開催することができました。この大会には、特に同窓会からの強力なご援助をいただき、滞りなく実施することができ、全国の水産・海洋高等学校から数多くの感謝の言葉が寄せられています。

かつては、「十年一昔」と言われていましたが、今では「五年一昔」になっています。IT革命がいわれる今日この頃の様子では、さらに変化の速度は加速されるでしょう。

しかし、水産・海運界を取り巻く状況は決して改善されはらず、今も苦しい状況が

横たわっています。このような状況の中で活路を求め、は、もはや水産高校が頑張るだけではどうすることもできないと思われま。社会全体が、海を大切に、海に生きる日本を再構築する方向に向かわなければなりません。二十一世紀は「海の世紀」と呼ばれています。食糧問題、環境問題、海洋深層水の研究と利用も一層進むこと

でしょう。しかし、この時、それを支える「海に生きる人間」がいなければどうにもなりません。水産高校の使命はまさにそこにあるのだと思われま。特に本校は、全国でも特異の「都市型」の水産高校として存在しており、この状況を切り開くのは並大抵の努力では太刀打ちできません。考えてみれば、実に激動の十年間であったという思いです。

しかし、世の中の変化は早くこれまでの十年間以上に早い状況の変化が訪れると思われま。この困難な状況を切り開くべく、全職員一体となつて事に当たる覚悟ですが、同窓会の皆様のお一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

ます。

今年、本校創立六十周年の記念すべき年に当たっています。秋には記念行事が同窓会の皆様のお力添えで実施されます。人間で言えば還暦に当たると言え、本校の新たな出発の年になることを祈念して、着任の挨拶に代えさせていただきます。

水産・海洋教育に携わって

現豊橋工業高校 校長 市川 優

同窓会員の皆様には、益々ご健勝にて各方面にご活躍のこととお喜び申し上げます。

また、在任中は小田喜代春会長様はじめ、会員の皆様方には一方ならぬご支援ご協力を賜り深く感謝申しあげます。誠にありがとうございます。

蒲郡に生まれ蒲郡で育った私は、平成九年四月に新任校長として、この伝統と歴史のある三谷水産高校に赴任し、初めて水産・海洋教育に携わる機会を与えられました。水産高校に關しての予備知識と言え、地元で県内唯一の水産高校であり、愛知丸という大型実習船が、ハワイ沖まで

生徒を乗せて永い遠洋航海実習を行う学校であるという知識しか持ち合わせていない状況でありました。私の専門は工業の機械であります。工業高校の学習内容や施設、工業高校の産業界における立場や状況、ここで学ぶ生徒や職員

の教育活動の様子などは、自分なりにこれまでの教員生活の中で理解しておりました。しかし、水産・海洋教育に關しては、前述のごとく全くの白紙の状況と、立場の異なる役職に緊張感を強く感じて着任いたしました。生まれた時から三河の海を眺め、海で遊び育った私は、海や船や魚釣りが好きで、子供の頃は将来は水産・海洋系の学校に進み、大きな船で海を隔てた、遙かなる国々を訪れる夢を持っておりました。水産高校の辞令

を手にしたときは、正直、不安はなく子供の頃の夢が叶えられるという喜びに浸っておりました。赴任してまず感じたことは、校内の清潔さと整頓の良さ、漂う潮の香りと潮騒の音でした。教職員は明朗快活、団結心が強く、労を惜しまぬ協力を果たした海を教育の場とする教師集団でし

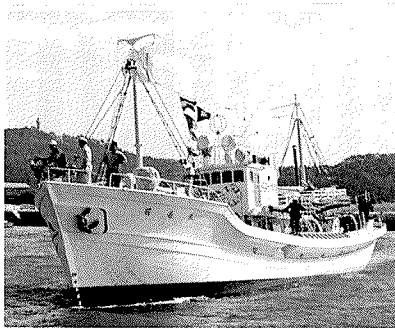
た。生徒は純朴で素直、ストリートに自分を表現できる若者達でした。また、同窓生は「海」を媒体とする水産高校で、多感な青春時代を共に過ごされた先輩と後輩の絆が強く、同窓会長を中心とした同窓会組織の活動の素晴らしさと、母校水産高校に対する思い入れと協力支援の厚さに敬服させられました。

しかし残念ながら、我が国の水産業を取り巻く現状は厳しく、全国の水産・海洋高校はその存続が危惧される状況にあります。昔から我が国は、優れた海洋文化と漁食文化を有する海洋国家でありました。このことから、いわゆる「海・船・魚」を媒体とした水産・海洋教育は、21世紀に生きる若人に伝うべき重要な使命を持った教育機関であります。これらのことから、

水産・海洋系高校が活力と魅力ある学校となることが重要であり、このことが、次代の水産業を担う若者と後継者の育成につながるものと考えられます。海洋に夢を抱き、マリンスポーツやフィッシングを愛する子供達は多くいます。夢を抱き、真にやりがいを持



つて海に生きる若者を育てる水産・海洋教育の一層の活性化と発展を期待しています。ここ愛知県は、名古屋、三河、衣浦の三大港を擁し、関連する陸・海運輸に係わる水産関係就業者の需要は今後も高位に推移するものと予想されます。さらに、海洋の多目的利用を企図した大規模事業計画等を考慮すれば、マリーナ施設の保守管理者、潜水資格取得者等の新規需要も予想されます。この様なことから、水産教育に携わる方々は、水産・海洋教育の重要性を十分に認識し、県内唯一の水産高校の存在意義を主張しつつ、学校の活性化を図り、全国水産・海洋高校の中核校として燦然と輝き続けることを願っています。



水いこと母校、県立三谷水産高等学校に勤めさせていたいただきました。今年三月末日をもつて定年退職。在籍中は皆様方には公私共に大変お世話に成りました。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。して、今回この「みおすじ」に原稿の依頼をうけましたが正直、大先輩諸氏を前にして何を書いてよいやら迷いました。古いアルバムの中から、昭和33年竣工した木造船日吉丸の写真を懐かしく並べてみました。お許し下さい。

出帆旗を掲げ出航!!
日吉丸の雄姿

「回想と御礼」

元漁業科教諭

尾崎 智

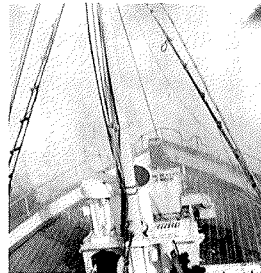


「皆様に御発展あれ」

都築機関士と筆者
航海中のスナップ1コマ



操業漁具投入作業
右端：鈴木漁労長



大時化をものともせず
果敢に進む



四国金毘羅宮参拝
徳重教官・清水通信長
制服制帽が似合う実習生

「三十数年前の思い出」

元機関科教諭

榊 原 不 退

私が、本校に新任教員として赴任したのは昭和三十七年四月一日である。当時は、これが高等学校とは思えない程お粗末な施設・設備であった。時代の進展とともに運動場の整備、校舎の増改築、体育館・武道館の整備実習棟の増改築、プールの整備等々現代に至っている。生徒で組織された週番が、毎朝、校門に立ち、挙手の敬礼で登校した生徒を迎え、また街角で出会うとお互いに敬礼で挨拶をする。整ったチュウニツク姿の制服がよく似合うすがすがしい光景であった。昭和三十年代は、戦後の復興から高度経済への進展のときでもあり、高校進学率も急増し学校が著しく発展を遂げた時代でもあった。本校の生徒諸君は、夢を持った者、頑張り屋、好奇心が強い者が多かった。就職活動では、県下もとより・国内各地・外国まで進んで出て行き活躍していた。ま

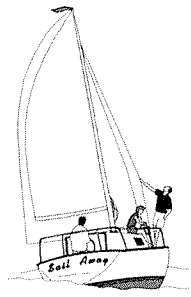
た、海に男のロマンを求め積極的に船乗りを希望する者が多かった。船員として海上で働けば、陸上で働くより三倍以上の収入が得られ、しかも、仕事をしながら外国に行ける。希望に満ち溢れていた。

一 国一城の主も多かった。日本は俺の手で創る。男の度胸が座っていた。

卒業生は常に母校のことを気に掛け、休暇の時などはよく学校に訪ねて来て、近況報告や母校の現状を語り合った。卒業生との酒宴の席で即興「三谷水高節」を口ずさんだことを覚えてる。

一 ここは三河か
三谷の町か
三谷の町なら
高校は水産
水産高校の
学生さんは
度胸一つの
男伊達

三 度胸一つで
三谷の町を
歩いて行きます
チュウニツク
チュウニツク
チュウニツク姿は
水産育ち
艦纒は
俺らの旗印



- 五 艦樓は纏えど
心は錦
どんなものにも
負なやせず
- 六 どんなものにも
負なやせずが
可愛いあの子にやあ
負なやせず
- 七 可愛いあの子は
何時でも捨てる
母校の為なら命まで
母校の為なら命まで
まさに三谷水産高校生その
ものであった。
取り留めのない話で終始し
てしまいましたが、私は、お
陰様で三八年間に渡る教員生
活を無事終えることができました。
この場をお借りして心から厚
くお礼申し上げます。
最後になりましたが、三谷
水産高校同窓会の益々のご発
展をお祈りします。
では、お元気で
合掌

北海道洋上研修を終えて
海洋漁業科 担任
二年学年主任 長坂 好二

北海道洋上研修は、特色あ
る学校作りの一環として、昨年
度より二学年のスキー修学旅
行に変わり、学校行事の中核
をなし、水産高校のコンセプト
である「海」「船」「魚」を身を持
って体験させ、水産高校生とし
ての誇りを持たせると共に、太
平洋という大海原、日高、富良
野、美瑛等広大な北海道とい
う二つの自然の中に身を置くこ
とで、自分を見つめ直す機会を与
えて「ゆとり」の中で「生きる力」
を育むという教育活動ができ
ることを期待するものである。
豪華大型フェリーでの洋上体
験航海は、海事従事者の育成
という水産高校生の進路目標
に置いて重要な役割を持つてい
る。太平洋フェリーには、本
校の卒業生が二十数名在籍し、
船長、機関長、パーサー、スチュ
ワード等重要な職責を担って
活躍されている。今航海の「い
しかり」には、西山朝則船長、
前田秀雄操機長、平賀孝一甲
板員の三名が乗船されていた。
船上での研修において講師とし

てお迎えし、各部門の説明や直
接話を聞いて指導を受けると
共に、質問に答えてくれる時間
を設け生徒それぞれには進路
決定の大いなる参考と動機付
けになったことと思う。

この研修は、船中二泊、北海
道二泊の日程であり終日好天
に恵まれ、西部開拓時代の雰
囲気を味わい、アウトドアの遊
びが体験できる「日高ケンタツ
キーファーム」、自然の大地から
生まれたチーズやソフトクリ
ムを食すことのできる「富良野
チーズ工房」、前田真三氏の美
瑛、富良野の美しい写真が展示
されている「美瑛・拓真館」、魚
種三五〇種、二万匹が飼育さ
れる「おたる水族館」、重要文
化財として残され、近代ヨーロ
ッパ復興様式の小樽市博物館と
して利用されている「旧日本郵
船（小樽支店）」、歴史的建造物
が立ち並び、ガラス細工、オル
ゴールの店が軒を連ねる「小樽
運河」周辺散策、そ上するサケ
を捕獲するインディアン水車や
直接魚を観察できる千歳川の
ほとりに建てられた「サケのふ
るさと館」、周囲三四km、最大
深度三六〇m、周囲を高い山に
囲まれた大自然の湖「支笏湖」、
観光の最後は「新千歳空港」で

ある。広い空港ビルの自由散策
では、ショッピングワールド、グ
ルメワールドで土産品の購入、
北海道の美味しさを堪能でき
たことと思う。

この北海道洋上研修を終え
豪華大型フェリー、広大な北海
道を満喫できたことと思う。
そして、生徒の心の中に一
つでも残るものがあること。
この研修が将来の何かの役に
立つことを祈り、二〇〇一年
に明るい未来が広がることを
期待するものである。

**全国水産・海洋高校
カッターレース大会**
総務主任 尾 関 義 人

全艇 白旗ビーピッピー
ビー ドーン 平成十二年七
月二十日 午前十一時第二回
全国水産・海洋高等学校カッ
ターレース大会第一レースが
始まり、北は北海道、南は沖
縄と全国十五校の生徒がこの
地蒲郡に集結しました。
開会式は、蒲郡市民会館で
盛大に行われ各校の選手団
は、南の沖縄県から順に校旗
又は、部旗を持ち、プラカー
ドを持った女子生徒を先導に
入場行進を行い、開会宣言、

優勝旗返還、各来賓祝辞、選
手宣誓など厳粛の中にも華や
いだ雰囲気の中で行われまし
た。

競技は、九mクリンカー型
カッター四艇（二艇は、焼津水
産高校より借用）を使用し、蒲
郡港蒲郡市民会館前特設海面
五〇〇m折り返しコースでト
ナメント方式で行われました。
第一日目は、予選四レース、
敗者復活戦二レース、準々決
勝四レース、第二日目は、準
決勝二レースと決勝戦です。
三谷水産高校は、準決勝戦で
三位となり、決勝戦には進め
ませんでしたが、生徒の悔し
涙が印象的でした。

各学校とも厳しいトレーニング
の成果があらわれ白熱した
レースが多く、予選レースで好
タイムをだしながら決勝戦に
は進めなかった学校もあり、こ
れもトーナメント方式で行う
競技のおもしろさではないか
と思います。決勝戦には、二年
連続優勝をねらう静岡県立焼
津水産高校、昨年の雪辱をね
らう大分県立海洋科学高校、
岩手県の宮古海員学校と千葉
県の館山海員学校の四校で争
われました。結果は大分県立
海洋科学高校が昨年の覇者静

岡県立焼津水産高校を約八秒差で破り見事第二回大会の優勝校となりました。三谷水産高校は、予選で三位と好タイムをだしながら準決勝戦で破れ、決勝戦には進めませんでした。レースの模様は、昨年と同様にインターネットに載せレースの様子、結果等リアルタイムで送信し参加校の母校では、ブラウン管の前で応援することができ大変好評でした。

第三回大会も本校が主管で行うことが決定しており、過去二回の大会の反省を踏まえより充実した大会にしたいと考えています。同窓生の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

〔参加校〕
 北海道立小樽水産高等学校
 青森県立八戸水産高等学校
 千葉県立銚子水産高等学校
 千葉県立安房水産高等学校
 東京都立大島南高等学校
 神奈川県立三崎水産高等学校
 静岡県立焼津水産高等学校
 島根県立隠岐水産高等学校
 徳島県立水産高等学校
 愛媛県立宇和島水産高等学校
 大分県立海洋科学高等学校
 沖縄県立翔南高等学校
 愛知県立三谷水産高等学校

国立宮古海員学校
 国立館山海員学校
 優勝
 大分県立海洋科学高等学校
 五分四七秒九九
 準優勝
 静岡県立焼津水産高等学校
 五分五六秒三一
 三位
 国立宮古海員学校
 五分五九秒八三
 四位
 国立館山海員学校
 六分〇〇秒七四

〔こみを散らかす者がいなければ、このような清掃活動をする必要はないのだ。〕今年になって、この言葉を耳にするのは、二回目である。九月九日土曜日、全校一斉の海浜清掃活動の開始式、河合校長の挨拶は、そのような内容を含んでいた。本校は、平成十一年度より三年間、県および市の社会福祉協議会を実施主体とする社会福祉協力校としてさまざまな福祉活動を実践してきている。

ボランティア活動

原 瀬 能 幸

同窓生の声

その中核とも言える海浜清掃活動は、年二回、計画され、一年から三年までの生徒と多くの職員が、三谷港から蒲郡埠頭までの海岸およびJR東海道本線南側の市街地を半日かけて、こみについて考える全校集会となった。その中で生徒会長は、「こみのボイ捨てがなければ、海も街も汚れない。こんなボランティア活動もない。」と言い切った。海浜清掃活動を通じて、生徒自身、日頃の生活を見つめなおしてもらいたい。

回想、無線通信士を目指して
 昭和四十九年 無線通信科卒
 竹内英隆

私達が入学した頃の無線通信科は、水産高校という質実剛健の中で、先輩後輩がよくまとまっていたことを思い出します。体育大会の応援練習はじめ水泳訓練、カッター訓練では、厳しさの中に伝統を重んじた先輩の指導に、後輩達もよくついていきました。また通信士の資格を取得され現場で活躍されている先輩方もよく来科され「資格取得が飯の

種」と教えて頂き、将来の夢に心躍らせた事を思い出します。本科卒業後、更に上級の資格取得を目指し専攻科に進学しました。先生方も生徒と真剣勝負の毎日で、国家試験との戦いの二年間でしたが、その後の社会経験の中で、どれだけのあの五年間の経験が役にたったか言うまでもありません。卒業後は世界を駆けめぐる船との無線通信を行うN T T銚子無線電報局を経て、現在はマルチメディア推進担当として、新しい世界で頑張っています。

無線通信科を振り返って
 昭和四十九年 無線通信科卒
 加藤郁夫

昭和四十六年四月、期待と不安を胸に正門をくぐった私達に待っていたのは難しい通信理論の授業と、モルルス符号の暗記でした。当時は本科在学中に第三級無線通信士の合格が必修で、夏休み返上で勉強したことを思い出します。当時は、先生方も勉強を含めて何かと面倒を見て下さいました。試験の前などは夜遅くまで教えて頂いたり、体育大会、カッター訓練、水高祭と、今思

新任の挨拶

えは懐かしい思いばかりです。先生方も通信士として実際に社会経験をされた方が多く、授業で聞く色々な話に夢を広げ、卒業後の進路も、高校在学中にしっかり選択できました。現在はN T Tドコモ(株)で携帯移動通信関係の仕事をしています。ですが、卒業以来今日まで、こうやって頑張れるのも、専攻科を含めてあの五年間があったおかげと感謝しています。

質問形式で返答して頂いています。

Q1 昨年は何をしてみえましたか？

Q2 本校の生徒の印象は？

A1 地歴科 廣田 幸生
 A1 新城高校で1年園芸科の担任をしていました。
 A2 元気があっていい。特にさわやかに挨拶ができる人がたくさんいるので、接している、気持ちがいい。

国語科 杉浦 明人
 A1 蒲郡東高校
 A2 明るくて、ストリートに自分の気持ちを表に出す生徒が多いような気がします。

先生方もとてもエネルギーが
ユです。

A1 英語科 横井 通貴
大阪の百貨店で働いて
いました。

A2 性格の明るい素直な子
がたくさんいます。

A1 数学科 竹内 正之
吉良高校

A2 元気がありあまつてる
のかな。勉強は今一やる気の
ない子から意欲一杯の子まで
様々ですね。数学は嫌いな子
が多い科目だけど、何とか頑
張って下さい。また挨拶がし
っかりできたり、式での態度
が良いので感動しました。

A1 海洋漁業科 飯塚 和俊
民間で会社勤務

A2 三河湾を眼前に臨む本
校は、生徒の皆さんが大切な
青春を送るのに相応しいすば
らしい学校だと感じました。

A1 水産工学科 三浦 嘉彦
山口県下関市にある水
産大学の専攻科生でした。

A2 学校前にすぐ海が広が
り、これぞ水産高校というの
が初めの印象でした。生徒に
対しては、私が高校生だった
ときに比べると、ずいぶんオ
シャレだなと感じました。

事務主任 小野田充良

部 活 紹 介

A1 豊橋工業高校
A2 転勤したばかりなの
で、様子がわかりませんが、
水産高校という事で、今は珍
しく、戸惑っている状態です。

〔カッター部〕

・第28回北陸漕艇大会

6月23日、豪雨の中で開かれ
た。二チーム(二年生オープン
が参加、予選平均タイム6分14
秒98、決勝6分14秒61で第二
位に入賞、一年生チームも7分
27秒28の好タイムを出した。

・第2回全国水産・海洋高校
カッターレース大会
7月20日・21日
予選6分00秒08のベストタイ
ムを出し準々決勝へ、21日の準
決勝に進出、残念ながら敗れた。
部員数28名、うち女子5名全
員ファイトある生徒達である。

来年度に二大会に向け一致
団結で頑張っています。

〔水泳部〕

今年より水泳部の中にダイ
ビングを行なう潜水部も加わ
り、今まで部員も少なく細々

〔野球部〕

・第82回全国高等学校野球選
手権大会愛知大会一回戦

三谷水産0―11横須賀
・平成12年度東三河高等学校
野球大会一次リーグ

三谷水産4―2新城
三谷水産0―17豊丘
三谷水産2―8蒲郡東
一勝三敗Aブロック3位

〔サッカー部〕

・第54回総体東三河予選会
4月22日、23日
時習館13―0三谷水産
三谷水産4―1黄柳野
豊橋南5―0三谷水産
豊川3―0三谷水産
・東三河支部大会
7月28日
豊橋西7―0三谷水産

〔バスケット部〕

本年度は、実力はあるが練
習をあまり熱心にやらない部
員が多く、そのため試合では、
前半リードしているものの、
後半体力不足で逆転されるケ
ースが非常に多い。以下が新
チーム公式戦の結果である。

・平成11年度新人戦
43×52 対新城
・第54回総体東三河予選
40×50 対成章
・平成12年度東三河夏季大会
一回戦 53×43 対御津
二回戦 49×59 対成章

〔バレーボール部〕

三谷水産高校女子バレーボ
ール部は今年で創部二年目に
なります。一年生部員三名で
始まった去年は、体育館の改
装工事と思うように練習でき
ませんでした。今年には新たに
新入部員も加わり、現在一年
生四名、二年生三名、合計七
名で、公式戦出場目指して頑

張っています。

〔テニス部〕

・第54回総合体育東三河予選
4月16日 個人戦シングルス
ブロックベスト8
寺田俊介(3年)
4月22日 個人戦ダブルス
2回戦進出
寺田俊介(3年)
波多野貴澄(2年)

〔柔道部〕

・蒲郡市内高校リーグ戦大会
6月4日
Aチーム 優勝
Bチーム 第三位
・東三河高校体重大会
7月30日 (以下全員三位)
100kg級 吉戸貴徳
60kg級 小林英治
以上が主な公式戦の結果で
す。市内大会において団体優
勝できたことは部員にとって
大きな自身となりました。

〔日々努力〕の精神で本年度 も団体戦県大会出場を目指し て頑張っています。

〔吟剣詩舞道部〕

今年も対外活動できました。

一 本校PTA総会時
二 第24回全国高等学校総合
文化祭 8月三島市
三 愛知アートフェスタ、高
校生の文化の祭典